

(参考)二地域居住の取組例

二地域居住とは…

二地域居住とは、都市部と地方部に2つの拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つです。

二地域居住のイメージ

例えば、平日は都市部で暮らし、仕事をして、週末などの休みを活用して趣味などのゆとりある生活を過ごすことが考えられます。



二地域居住のメリット

二地域居住は「実践する側」と「受け入れる側」双方にとって
以下のようなメリットがあるライフスタイルです。

実践する側

実践者

- ・ゆとりある生活 (スローライフ)
- ・心、体、健康等の
癒やし



企業

- ・働き方改革
- ・社会貢献活動
- ・福利厚生
- ・新規ビジネスの
展開



受け入れ側

受け入れ住民

- ・人材不足の解消
- ・コミュニティの
活性化



地方自治体

- ・遊休農地の解消
- ・地域に仕事が
生まれる
- ・経済効果 (消費等)



(備考)国土交通省「二地域居住 推進の取組事例」(2018年3月)より抜粋。

事例5

CASE STUDIES



取組団体

いえしまコンシェルジュ合同会社(姫路市)

家島の魅力を伝えるためにガイド事業や特産品の製造、島外への魚の定期販売、島内の魚や加工品の卸売、男鹿島の空き家改修(男鹿島うみのいえ)等の取組を実施しています。



取組概要

家島での二地域居住等の促進に向けて宿泊・交通費などの金銭的負担を軽減するため、都市部の人が趣味や特技を活かした商売により収益を得られる、空き店舗を活用した「小商い」を実施しました。

小商い実践スペース「チャレンジショップ」の開設

空き店舗を「チャレンジショップ」として整備を行い、島外参加者(家島に複数回訪れた人、家島出身者等)を募集して、島民の求める家島ないものを中心に、参加者が個別に用意した商品(レトルトカレー・羊羹・みかん・オリジナルTシャツ・ドリップコーヒー等)を販売しました。



チャレンジショップの様子

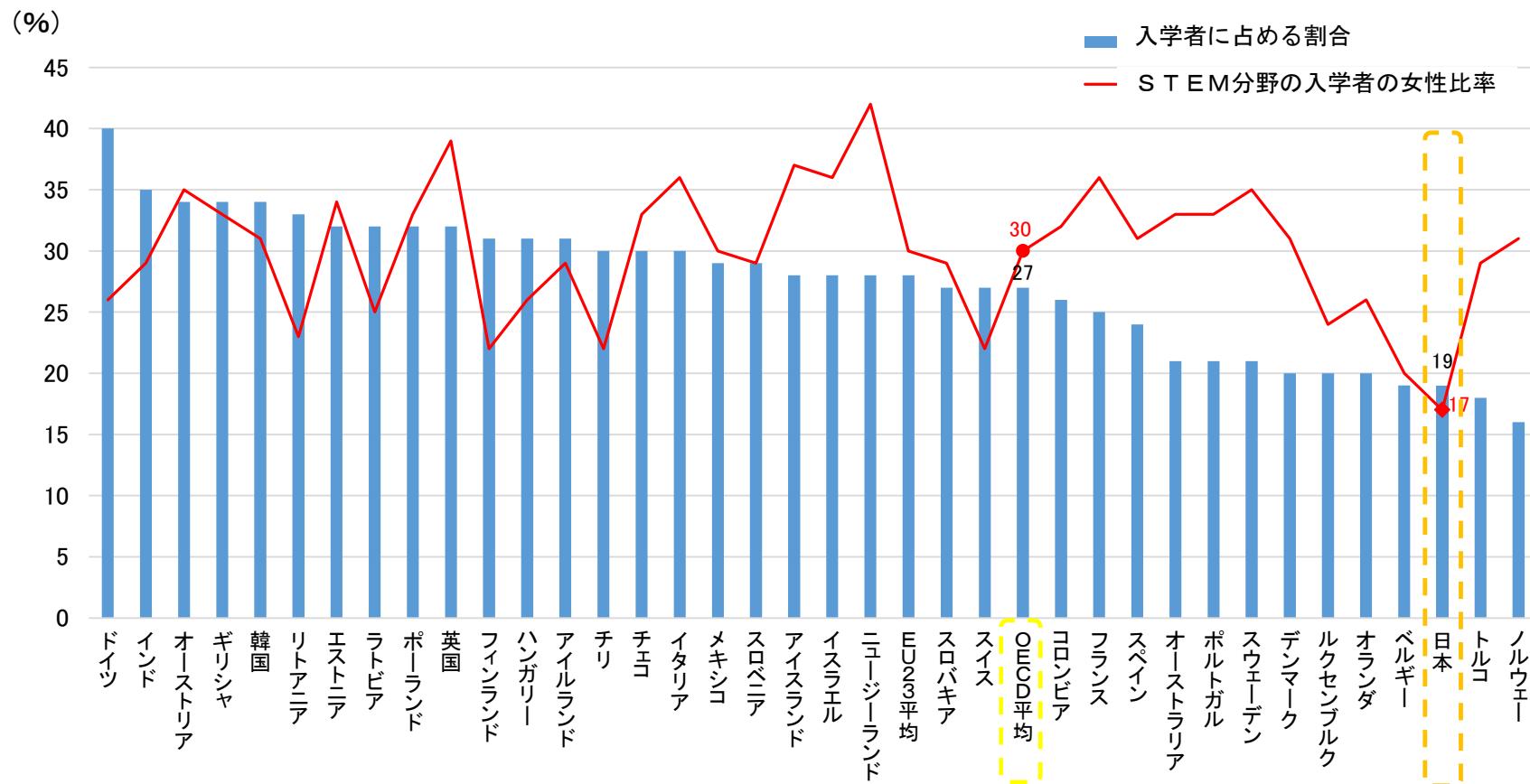
取組効果

- ・「小商い」を通じて、収益だけでなく、地域との繋がりを持つきっかけとなると認識することができました。
- ・今後は、「島にない体験やサービス」の提供を気軽に実施することができる「小商い」の場の整備により、都市部の人と島住民の交流に繋がるところ考えられます。このような交流が増えることで、新たに小商いに参加する人が増え、島の新たな賑わいの創出に繋がると考えられます。
- ・都市部の人と島住民との関係性が深まることで、「週末起業の促進」や観光客以外の「交流人口の拡大」が期待できます。

大学入学者に占めるSTEM分野の割合等の国際比較

- 日本の大学入学者に占める、STEM分野の割合は、OECD諸国の中でほぼ最低水準。
- 日本のSTEM分野の入学者の女性比率は、OECD諸国の中で最も低い。

大学入学者に占めるSTEM分野の割合、STEM分野の入学者の女性比率



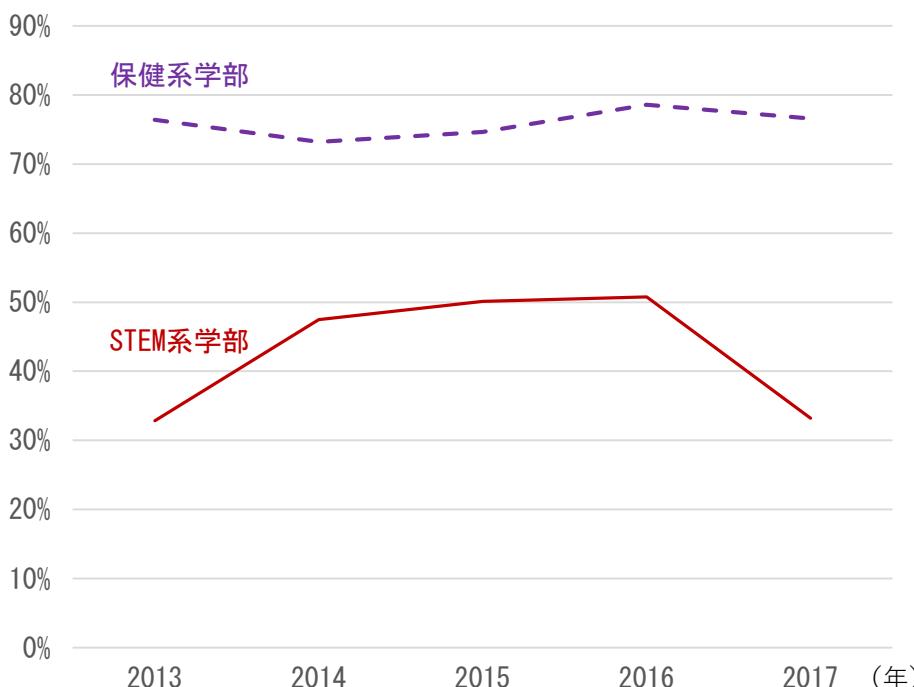
(備考)OECD「Education at a Glance 2019」により作成。「Bachelor's or equivalent」の数値を利用。カナダ、米国の数値はなし。

学部は①「Health and welfare」、②「Business administration and law」、③「Science, technology, engineering and mathematics」に分類され、③の数字を利用。

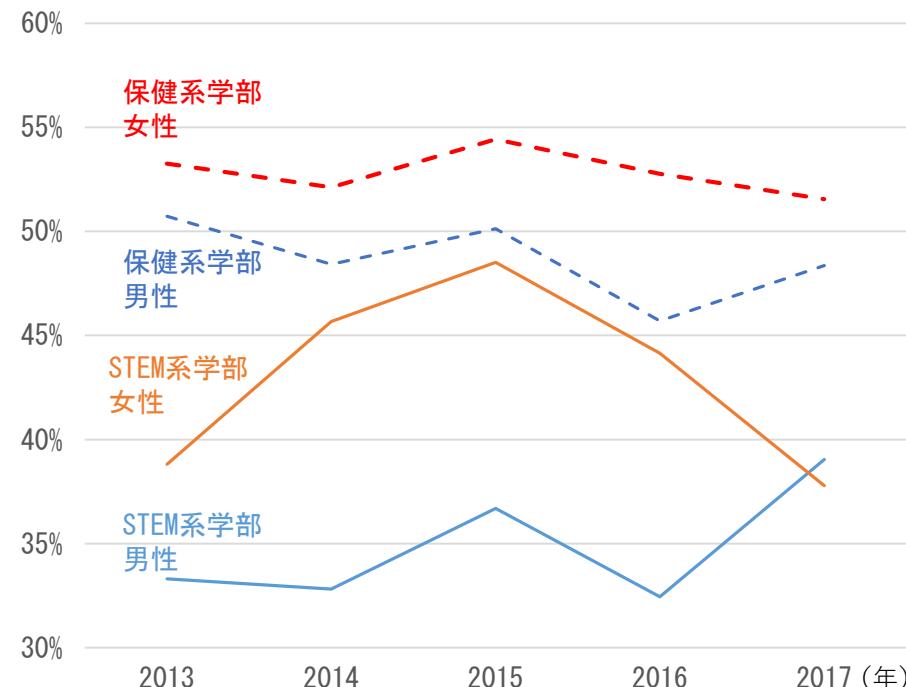
公立大学卒業者の就職動向

- 公立大学における保健系学部卒就職者の女性比率は、STEM系学部に比べて大幅に高い。
- STEM系学部卒業生は、保健系学部に比べて、大学のある都道府県内での就職率が低い。
また、男性よりも女性の方が、大学のある都道府県内での就職率が高い傾向。

公立大学卒就職者における女性比率



公立大学卒業生の都道府県内就職率(男女別)



(備考)公立大学協会「公立大学ファクトブック2018」により作成。公立大学卒業生の大学所在都道府県への就職者について、公立大学協会で把握可能な大学分を集計。

STEM系学部:理学、工学、農学、情報関係学部、保健系学部:医学、歯学、薬学、保健科学関係学部。看護学部は含まない。